

まだまだやります。 「息の長い支援」は神戸から

阪神淡路大震災で被災された方を、神戸市内の復興住宅にお訪ねし、震災のことや今お困りのことなどの「お話し伺い」をする傾聴ボランティアです。

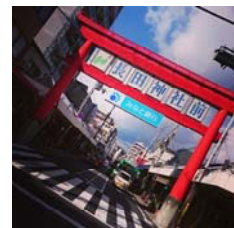
1回だけでも、初めてでも、お気軽に、一緒くたさればうれしいです。

3月7日(土)・28日(土)・29日(日) 午後2時～5時

集合場所・時間：長田神社前商店街入口 午後1時30分

地下鉄長田・高速長田すぐ、長田神社南交差点、赤い鳥居があるところです。

集合後、長田区内の復興住宅をお訪ねします。



050-6863-1039 [電話] kobevolunteer@aol.jp [メール]

ご参加の際は、電話、メール、メッセージにて、予めご連絡くだされば幸いです。

2015年、年間テーマ：震災ボランティア、二十歳の原点。

阪神淡路大震災20年を控え、支援活動の世代交代や経験の継承が課題とされています。神戸・週末ボランティア新生では、震災の年からの活動を継承しつつ、若い世代が集まる中、原点と原則を忘れず、現状に甘んじることなく、常にフレッシュな視点と感性をもって臨もうと、年間テーマを掲げることにしました。



神戸・週末ボランティアは、2013年、新たな活動主体

「**神戸・週末ボランティア 新生**」のもと、
リフレッシュ・スタートしました。

不定期ながらも、毎回ニーズや課題に即したテーマを設定する
新たな形態で、阪神淡路大震災の被災者に寄り添い、
共に歩んでいきたいと思ひます。



新聞で紹介されています！ 産経新聞 神戸版 2010.11.28
若者にも被災者支援の輪 神戸市民グループ「週末ボランティア」

This is 神戸・週末ボランティア <http://kobevolunteer.web.fc2.com/> (純正サイト Yahoo! JAPAN登録)
[Facebook](#)・[Mixi](#)・[Google+](#)・[Twitter](#) - [welove_kobe](#)、もよろしく!

おかげさまで 仮設・復興住宅訪問通算600回！

神戸・週末ボランティア 新生が2014年3月30日に行った復興住宅訪問活動は、「週末ボランティア」(旧)が、阪神淡路大震災後、取り組みを始めて以来、通算600回目となりました。

阪神淡路大震災から早くも20年になりました。新たな活動主体のもとで、今だからこそ、これまでの被災地に根ざし、これまでの被災者に寄り添おうと、神戸市内の復興住宅に改めてお訪ねし、「お話し伺い」～傾聴ボランティアをさせていただいています。

阪神淡路大震災を象徴する映像のひとつは、長田の街が炎上するものでした。震災と、それを機に一気に進められた区画整理事業のために、辛うじて命を長らえた被災者も、少なからず、その地で暮らすことを断念せざるをえなくなり、同じ地であっても人々の顔ぶれも街のありようも変わってしまいました。

一度は、それまでに近いところにとどまったり、戻ったりすることが叶ったからといって、復興や生活再建が達成されたわけではありません。年月を経る中で、深化した、或いはまた新たに発生した問題が山積んでいます。

もともとこのボランティアの訪問活動は、住み慣れた地を離れて、仮設住宅や復興住宅に住まうことを余儀なくされた被災者の方々のために始めたものですが、そうした現下の状況に鑑みて、市街地においても[再]展開しています。

1月には、三宮・東遊園地の一角に灯る「希望の灯り」の分灯とともに、復興住宅にお訪ねし、その中で初めて長田区内の復興住宅への訪問を行いました。今季も引き続いて、桜の咲く頃まで、お訪ねすることにしました。

1回だけでも、初めてでも、お気軽に、ご一緒くださればうれしいです

☆新聞で紹介されています☆
産経新聞：「時間重ねて見える問題も」復興住宅訪問600回
に神戸のボランティア団体
神戸新聞：住民の悩み聞き続け
神戸・週末ボランティア
新生 「将来の一助に」復興住宅訪問、仲間募る
(2014.3.23神戸版)

産経新聞 平成26年(2014年)3月23日 日曜日



復興住宅に住む女性から話を聞くボランティア
団体主宰の原英樹さん(右)＝神戸市垂水区

阪神大震災の発生から20年、震災後に発生した前身団体
年目に入り、復興住宅の住をめぐると、訪問回数は今
民が抱える問題を尋ねよう。月30日で通算600回に達
と、ボランティア団体「神戸・週末ボランティ
ア」が29日、神戸市垂水区「新生」は選に不定期
の市営住宅「ベルデ名谷」に復興住宅を訪問し、ホ
を訪れ、入居する高齢者ら「新生」は選に不定期
から話を聞いて歩いた。震災して問題の共有化を図って

復興住宅訪問600回へ

神戸のボランティア団体 HPで問題共有

阪神大震災当時の動不安」という相談を受けた
労世代が引退を迎え、経済、病気を抱えている男性
的に苦しむ健康を損な(7)に生活保護の医療扶助
つたりして問題は山積してを受けように勧めたけし
いるという。
メンバーはこの日、集 同団体の主宰、原英樹さ
合住宅内をめぐり訪問し、ん(48)は「震災から時間を
入居者の女性70から「隣 重ねること見える問題も
に誰が住んでいるかわから ある。これからの活動も統
す、倒れてしまったときが「けたい」と話した。

神戸新聞 (第3種郵便物認可)

復興住宅訪問、仲間募る

住民の悩み聞き続け

神戸・週末ボランティア新生 「将来の一助に」

グループは、東京都豊島区で約30回、中央区と垂水区の元高校教諭原英樹さん(48)の復興住宅で聞き取りをし
が呼び掛けた。原さんは大阪府
府油田市出身で、震災後、仮設住宅や復興住宅を訪ねる神戸の市民団体「週末ボランティア」を立ち上げた。これま
新生を立ち上げた。これま
70代の女性は「表札がない部屋もあり、隣りの部屋に誰が住んでいるかも分からない」と不安を打ち明けた。須磨区の自宅が全壊した別の男性(71)は病気で車いす生活。「ベッドに座るのもつらい」と語った。
フェイスブックで知り、活動に参加した垂水区の森聖幸代さん(40)は「高齢になってから新しい人間関係をつくるのは難しいと思う」とコミュニティの課題を指摘。原さんは「復興住宅が抱える問題は人ごとではない。将来の災害に備える一助にもしたい」と話している。今月23、29、30日にも行う。ホームページは「神戸・週末ボランティア新生」で検索。

ボランティアグループ「神戸・週末ボランティア」新生が、阪神・淡路大震災の被害公営復興住宅を訪ね、住民の抱える悩みや暮らしぶり、募っている。

神戸・週末ボランティア新生は、宗教や政党など全く関係のない民間のボランティアです。寄付や署名の要請、投票依頼、販売行為などは一切行いませんので、ご安心ください。

神戸・週末ボランティア 新生は、宗教や政党など全く関係のない民間のボランティアです。寄付や署名の要請、投票依頼、販売行為などは一切行いませんので、ご安心ください。